

はじめに

「AWS 認定デベロッパー – アソシエイト」試験 (DVA-001) は、開発者ロールを遂行する人を対象としています。

この試験で評価する能力は次のとおりです。

- 主要な AWS サービス、AWS の用途、および AWS アーキテクチャに関するベストプラクティスについての知識。
- AWS を使用してクラウドアプリケーションを開発、展開、およびデバッグするスキル。

試験の前提条件

この試験を受けるにあたっての前提条件はありません。

推奨される AWS の知識

- AWS ベースのアプリケーションを開発および保守することに関する 1 年以上の実務経験。
- 1 種類以上の高水準プログラミング言語に関する深い知識。
- 主要な AWS サービス、AWS の用途、および AWS アーキテクチャに関するベストプラクティスについての知識。
- AWS を使用してクラウドアプリケーションを開発、展開、およびデバッグするスキル。
- AWS サービスの API、AWS CLI、および AWS SDK を使用してアプリケーションコードを記述する能力。
- AWS サービスの主要機能について説明する能力。
- AWS の共有責任モデルに関する知識。
- アプリケーションライフサイクル管理に関する知識。
- CI/CD パイプラインを使用して AWS 上にアプリケーションを展開する能力。
- AWS サービスを扱う能力。
- クラウドネイティブアプリケーションに関する基本知識を活用してコードを記述する能力。

- AWS のセキュリティに関するベストプラクティスに基づいてコードを記述する能力 (例: コード内でシークレットキーやアクセスキーを使用せず、代わりに IAM ロールを使用する)。
- AWS 上でコードモジュールを記述、保守、およびデバッグする能力。
- サーバーレスアプリケーションのコードを記述するスキル。
- 開発プロセスでのコンテナ使用に関する知識。

試験の準備

本試験の準備に役立つトレーニングコースと資料は次のとおりです。

AWS に関するトレーニング (aws.amazon.com/training)

- 「Developing on AWS」: インストラクター主導による、ライブまたは仮想クラスでの 3 日間の コース
- AWS デジタルトレーニング: アプリケーションサービス、開発ツール、およびこの試験で扱われるその他のサービス

AWS に関するホワイトペーパー (aws.amazon.com/whitepapers) Kindle 版および PDF 版

- 「AWS Security Best Practices」 ホワイトペーパー (2016 年 8 月発行)
- 「AWS Well-Architected Framework」 ホワイトペーパー (2017 年 11 月発行)
- 「Architecting for the Cloud - AWS Best Practices -」 ホワイトペーパー (2016 年 2 月発行)
- 「Practicing Continuous Integration and Continuous Delivery on AWS Accelerating Software Delivery with DevOps」 ホワイトペーパー (2017 年 6 月発行)
- 「Microservices on AWS」 ホワイトペーパー (2017 年 9 月発行)
- 「Serverless Architectures with AWS Lambda」 ホワイトペーパー (2017 年 11 月)
- 「Optimizing Enterprise Economics with Serverless Architectures」 ホワイトペーパー (2017 年 10 月)
- 「Running Containerized Microservices on AWS」 ホワイトペーパー (2017 年 11 月)
- 「Blue/Green Deployments on AWS」 ホワイトペーパー (2016 年 8 月)

AWS に関する文書

- 各種の AWS サービス (例: コンピューティング、データベース、アプリケーション、メッセージング) に関する文書の Web ページ (サービスガイドやリファレンスを入手可能)

試験内容

回答タイプ

試験の質問には以下の 2 種類があります。

- **択一選択問題:** 選択肢には 1 つの正解と 3 つの不正解 (誤答) があります。
- **複数選択問題:** 5 つ以上の選択肢の中に 2 つ以上の正解があります。

文章に最もよく当てはまるもの、または質問の回答となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識やスキルが不十分な受験者が間違えやすいもので構成されています。多くの場合、試験の目的に応じた出題分野に当てはまる、もっともらしい回答になっています。

回答しなかった場合は不正解とされるため、推測でも答える方が有利です。

採点対象外の内容

試験には、採点の対象にはならない質問が含まれる場合があります。これは統計的な情報を集めるために試験に組み込まれています。フォーム上でこれらの質問を区別することはできませんが、スコアに影響を与えることもありません。

試験の結果

「AWS 認定開発者 - アソシエイト」試験 (DVA-C01) の結果は、合格または不合格のいずれかになります。試験は、認定業界のベストプラクティスとガイドラインに従って、AWS プロフェッショナルにより設定された最低基準に達しているかどうかに応じて採点されます。

試験結果は 100～1000 点の範囲のスコアでレポートされます。最低合格スコアは 720 点です。スコアによって、試験での全体的な成績と合否がわかります。スケールドスコアモデルは、難易度にわずかな違いのある複数の試験形式のスコアを平均化するために使用されます。

スコアレポートには各セクションレベルでの成績の等級表が掲載されています。この情報は、試験成績に関する全体的なフィードバックを提供することを目的として設計されています。試験では補填形式のスコアモデルが使用されるため、個別のセクションごとに「合格」する必要はなく、試験全体で合格することのみが求められます。試験の各セクションには特定の重み付けがされているため、一部のセクションでは質問数が他のセクションよりも多くなっています。表には、長所と弱点を示す総合的な情報が含まれています。セクションレベルのフィードバックは慎重に解釈するようにしてください。

試験内容の概要

この試験ガイドには、比重、出題分野、および試験の目的のみが記載されています。試験の出題内容全体を記載しているわけではありません。出題分野と比重を以下の表に示します。

分野	試験における比重
分野 1: 展開	22%
分野 2: セキュリティ	26%
分野 3: AWS サービスを使用した開発	30%
分野 4: リファクタリング	10%
分野 5: モニタリングとトラブルシューティング	12%
合計	100%

分野 1: 展開

- 1.1 既存の CI/CD パイプライン、プロセス、およびパターンを使用して、記述したコードを AWS 内に展開する。
- 1.2 Elastic Beanstalk を使用してアプリケーションを展開する。
- 1.3 AWS に展開するアプリケーション展開パッケージを準備する。
- 1.4 サーバーレスアプリケーションを展開する。

分野 2: セキュリティ

- 2.1 AWS サービスに対して、認証された呼び出しを行う。
- 2.2 AWS サービスを使用して暗号化処理を実装する。
- 2.3 アプリケーションに対する認証処理と承認処理を実装する。

分野 3: AWS サービスを使用した開発

- 3.1 サーバーレスアプリケーションのコードを記述する。

- 3.2 機能要件をアプリケーション設計に反映させる。
- 3.3 アプリケーション設計に基づいてアプリケーションコードを記述する。
- 3.4 API、SDK、および AWS CLI を使用して、AWS サービスとやりとりするコードを記述する。

分野 4: リファクタリング

- 4.1 AWS のサービスと機能を最大限に活用できるようにアプリケーションを最適化する。
- 4.2 既存のアプリケーションコードを AWS に移行する。

分野 5: モニタリングとトラブルシューティング

- 5.1 モニタリング可能なコードを記述する。
- 5.2 テスト環境または本番環境で見つかった障害に対する根本原因分析を行う。